

東松島市伝承会

町では、南海トラフ地震に備えようと東日本大震災で被災した宮城県東松島市に経験などを学び、防災計画を改定するために昨年8月から同市と連携しています。

第1回目となる「東日本大震災の教訓を活かす伝承会」は東松島市で行われ、第2回目が1月16日(木)、黒潮町で実施されました。今回は、東松島市役所の齋藤友志

防災課長と藤田栄治福祉課長が講演し、職員約40人が参加しました。

齋藤課長は、被害や避難所の詳細、その後のまちづくりなどを写真を交えながら、「経験したことはすべて黒潮町に伝えるつもり。実効性の高い防災計画を作ってほしい」と話しました。また、震災当時広報担当だったという藤田課長は、正しい情報提供の大切さなどを訴えました。



齋藤課長の講演

大西勝也町長は、「東松島市の知見を、来たる災害に向けての心構えとして底上げし、町全体の防災力をアップさせたい」と話しました。

カツオ一本釣り漁船の水揚げ表彰

第83佐賀明神丸が令和元年の漁期において、近海カツオ一本釣り漁業で水揚げ額日本1位を達成し、町の水産振興に貢献したとして1月17日(金)、町からの表彰状を同船を代表して明神学武漁労長が受け取りました。

同表彰は、町の大型カツオ一本釣り船で最も漁獲高が多かった船を毎年表彰しているものです。

明神漁労長は、「不漁と言われている中でしっかり準備を行い、平均的な漁ができたことで結果が付いてきたと思う。今年も水揚げ量・金額ともに昨年以上をめざしたい」と話しました。



表彰状を受け取る明神漁労長



海の狩人交流サッカー大会

1月9日(木)、土佐西南大規模公園人工芝グラウンドで「第2回海の狩人交流サッカー大会」が開催されました。

同大会は、町で漁業実習を受けている外国人技能実習生を対象に、実習生同士の交流と黒潮町に愛着を持ってほしいという思いで昨年から実施され、53名が参加しました。

試合は8チームトーナメント方式で行われ、実習生らは声を掛け合いながらボールを追いかけ、サッカーを通じて交流しました。

また、昼食にはインドネシアの家庭料理が振る舞われ、実習生は「美味しい」、「懐かしい味」と話しながら舌鼓を打っていました。研修3年目のフェルマンさんは、



ボールを追いかける実習生ら

「サッカーは楽しくて、みんなにも会えてリフレッシュの場になった。また2月から実習を頑張りたい」と話しました。

子どもの命を守り生きる力を育む黒潮町民会議

1月17日(金)、「子どもの命を守り生きる力を育む黒潮町民会議」がふるさと総合センターで開催され、約70人が参加しました。

同会議は、全国各地で事件や事故、虐待やいじめなどで子どもの命が失われる事象が後を絶たないことから、町では、子どもを地域総がかりで見守り、子どもの命を守る環境を作ろうと企画されました。

初の会議となった今回は、畦地和也教育長から趣旨説明などの後、大阪教育大学の藤田大輔教授から「子どもの安全は大人たちのまなざしの先にある」という演題で講演が行われ、藤田教授は、「大人が子どもを大切にし、子どもたちに『かけがえのない自分』をわかってもらふことで、その子どもが成長したとき次世代の担い手につながる」と話しました。



講演を行う藤田教授

畦地教育長は、「この会議で情報提供や情報共有し、意識の醸成をしていきたい」と話しました。